

3)スプレーギク(秋ギクタイプ)のシェード及び季咲き栽培における夏秋採花技術

道南農業試験場 研究部 園芸科

1.試験のねらい

スプレーギクは豊富な花色、花型を持ち、全国的に栽培面積が増加している花きである。しかし、道内での栽培法については検討がなされていない。そこで本道の気候条件を生かし、夏秋期の出荷を狙って、秋ギクタイプの8~9月採花の短日処理によるシェード栽培と、10~11月採花の季咲き栽培において、高品質な切り花を生産するための栽培法の確立を図る。

2.試験の方法

秋ギクタイプは短日条件によって花芽分化し、自然開花期は10~11月である。短日処理を行って8~9月に採花するシェード栽培と自然日長下で10~11月に採花する季咲き栽培について、次の項目について調査した。

1)シェード栽培(8~9月採花)

- ①短日処理期間
- ②定植期と短日処理による開花調節
- ③定植後の温度管理
- ④親株の温度管理
- ⑤品種比較

2)季咲き栽培(10~11月採花)

- ①定植期
- ②栽植密度及び仕立法
- ③窒素施肥量
- ④親株と育苗中及び定植後の電照
- ⑤親株栽培
- ⑥品種比較

3.試験の結果

1)シェード栽培

シェード栽培は長日期に開花促進を目的に、朝・夕に遮光資材等により被覆して短日処理を行うことである。

短日処理は切花長80cmの採花を目標にすると摘芯後25日目(茎長約15~25cm)から開始し、育着色期まで行う必要がある。

定植時期と短日処理の時期による開花調節で8~10月の継続採花が可能となった(表1、図2)。しかし年または品種によって開花期、スプレーフォーメーション(花型)が多少ばらついた。

「ドラマティック」の親株の好適管理温度は15℃で、また加温開始時期が早いほどスプレーフォーメーションは良好であった(図1)。「ドラマティック」は定植後15℃以下でスプレーフォーメーションは乱れたが(図1)、「カナリア」は無加温でもスプレーフォーメーションは乱れなかった。

供試品種の中では「マイアミ」、「ホワイトピンキー」がスプレーフォーメーション、切花長とも比較的安定していて作りやすい品種であった。「ムーンライト」、「ホマロ」は8月出しでは短日処理から開花の日数が長い品種であった。

2)季咲き栽培

定植適期は7月30日前後であった(表2、図2)。栽植密度と仕立法については、疎植及び少ない仕立数はスプレーフォーメーションの乱れを助長するので注意する。栽植密度1,905株/a(床幅80cm、通路60cm、条間15cm中1条抜き、株間15cm)の3本仕立が規格内本数、スプレーフォーメーションが比較的安定していた。親株と育苗中及び定植後は無電照でも、スプレーフォーメーション等の品質の低下は認められず、季咲き栽培においてはこれらの電照は省略できる。

前年の採花株(越年母株)から採種して採花株を育苗したところ、採種親株(当年株)から採種・育苗した場合と比べ切り花品質の低下は見られなかった。従って、季咲き栽培においては、採穂用親株の養成は省略可能で、前年採花の越冬株が直接利用できる。

供試品種の中では「ホワイトピンキー」、「スワン」、「マイアミ」、「ムーンライト」がスプレーフォーメーションの乱れがなく、切花長も比較的大きく、作りやすい品種であった。

表1 シェード栽培の短日処理による開花調節

品種名	定植期 (年月日)	短日処理		開花始 (月日)
		開始(月日)	終了(月日)	
ドラマティック	H3.7.10	8.23	9.3	10.14
	H3.7.1	8.14	9.3	10.10
	H4.6.19	8.2	9.17	9.17
	H4.6.2	7.13	9.7	9.7
	H5.5.31	7.9	8.23	8.27
	H5.5.12	6.21	7.30	8.8
	H6.5.9	6.14	8.4	8.10
カナリア	H3.7.10	8.23	9.3	10.23
	H3.7.1	8.14	9.3	10.10
	H4.6.19	8.2	9.17	9.21
	H4.6.2	7.13	9.7	9.14
	H5.5.31	7.9	8.23	9.7
	H5.5.12	6.21	7.30	8.16
	H6.5.9	6.14	8.4	8.22

表2 季咲き栽培の定植期別の採花調査結果

品種名	年	定植期 (月日)	開花始 (月日)	2L(80cm) 割合(%)	SFのC~D 割合(%)
ドラマティック	H3	7.20	10.27	93	4
		7.30	10.25	70	0
		8.10	10.28	0	0
	H4	7.10	10.19	100	100
		7.20	10.19	100	80
		7.30	10.22	34	27
カナリア	H3	7.20	11.1	79	0
		7.30	11.1	61	0
		8.10	11.3	0	0
	H4	7.10	11.2	100	2
		7.20	11.2	100	0
		7.30	11.4	77	0

注)SF: スプレーフォーメーションの略

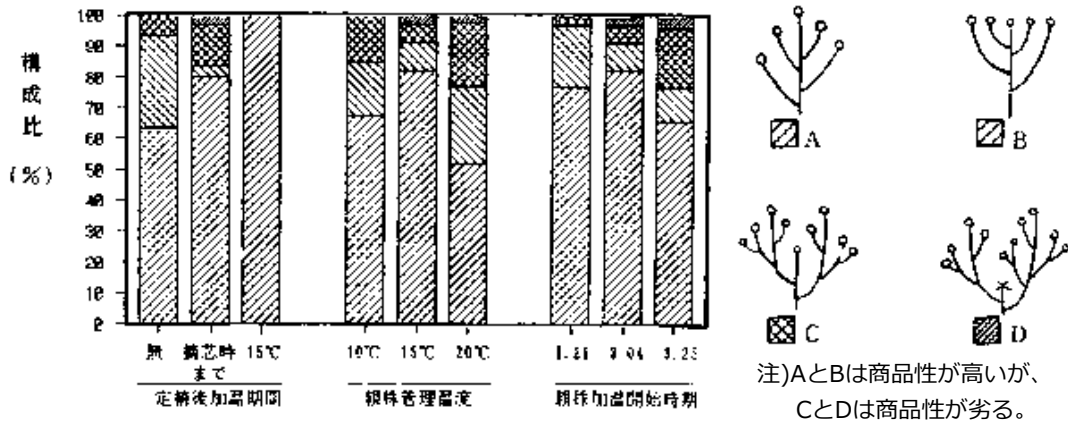


図1 シェード栽培の温度管理によるスプレーフォーメーション

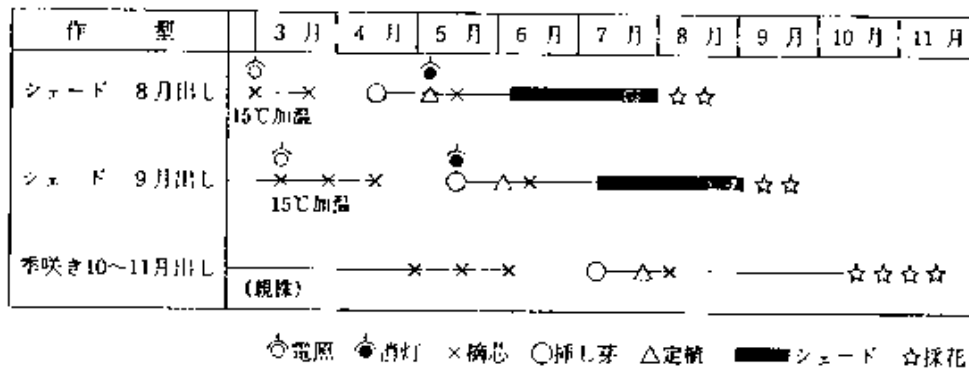


図2 スプレーギク(秋ギクタイプ)の栽培スケジュール